

米づくりのさかんな地域⑤

氏名 ()

【めあて】米づくりをしている人たちは、課題に対してどのような取り組みをしているのでしょうか。

①教科書78・79ページア～オの取り組みは、「米の消費量が減っている」「農家数が減っている」という課題をくいとめるために、どのような意味があるのでしょうか。考えたり、調べたりしたことを書きましょう。

ア 農家の三輪さんのウェブサイト	質の高い米づくりをしていることを広く知ってもらおう。
イ 地域の農家が集まる勉強会	米づくりの技術を教え合って、おいしい米を生産する。
ウ 玄米を材料に使ったベーグルパン	米の新しい食べ方を提案して、米の消費量を増やす。
エ 農業の技術を学ぶ	農業の技術を若い人たちに伝えて、農家の数を増やす。
オ 農業体験	米をたくさん食べてもらうために、農業の楽しさや米のおいしさを伝える。

②教科書79ページを読み、農家の人たちが取り組んでいることを調べましょう。

- 米の消費量を増やすために、米の粉を使った食品や米をとがずにたける無洗米を開発した。
- 農業機械を共同で買ったり、協力して作業したりする。
- 大規模な生産をしたり、種もみをじかまきしたりして、費用を下げる。

③南魚沼市で米づくりがさかんなのはなぜですか。「自然条件」「農家の工夫や努力」「農家を支える人々」の3つの視点から考えましょう。

【自然条件】 豊富な雪どけ水がある。 夏の時期に昼と夜の気温差が大きい。	だから、南魚沼市では米づくりがさかんだ。
【農家の工夫や努力】 水の量を調節したり、玄米黒酢をまいたり、かもを泳がせたりして、農薬や化学肥料をへらし、安全性を高めている。	
【農家を支える人々】 研究所が品種改良をして新しい品種を開発している。 南魚沼の米を売る店が各地にある。 など	

④これからの米作りに大切なことは何だと思いますか。考えを書きましょう。

なぜなら、
自分の考えを書きましょう
が大切だと思う。